

上条 報告

第55号
平成25年12月

甲州市教育委員会
☎32-5097

佐渡ヶ島へ行ってきました。

十月五・六日（土・日）に新潟県佐渡市で「日本の金銀山と佐渡金銀山」というシンポジウムがあり、そのなかで黒川金山について紹介する機会をいただき、参加してきました。

佐渡金銀山は日本で最も有名な鉱山ですが、観光開発が先行したため、学術調査は二十数年前から本格化したようです。

佐渡金銀山は平成元年に閉山したばかりです。で、四〇〇年間の遺構や施設が残されています。なかでも明治期以降の近代化に伴う施設や設備は特筆すべきもので、国策として金銀の生産を進めていた当時の様子を物語っています。

佐渡市では、佐渡金銀山を中核として、島全体を世界遺産に登録すべく活動をしています。有名な相川金銀山だけでなく、島全体に分布する他の鉱山遺跡、鉱山町として残された町並み、石臼用の石材を切り出した岩場、坑道の水抜き用の疎水など、関連するすべての遺構を調査しています。

そんな佐渡市の様子を報告します。



佐渡の金銀山

佐渡の金銀山としては、平成元年まで採掘されていた「相川金銀山」のほかに砂金採掘をした「西三川砂金山」、相川金銀山の山向こうに位置する「鶴子銀山」、トキが飛び交う地区近くにある「新穂銀山」などがあります。このうち、写真などで紹介されているのは相川金銀山で、露頭掘りを進めた結果山が二分されてしまった「道遊の割戸」や、巨大な近代化遺産群は相川金銀山に属し、株式会社ゴールデン佐渡が管理しています。また、近年整備された「佐渡奉行所」も相川地区にあります。



道遊の割戸。人の手で割ったものです。

相川金銀山を越えた反対側の斜面には、鶴子銀山があります。最近発掘調査が行われ、役所機能をもつ「代官屋敷」や、鉱山町である「荒町」の全容が明らかになりつつあります。

鶴子銀山の南側には真野湾が広がり、その対岸付近に西三川砂金山があります。この砂金は、もともと川や海に堆積したのですが、地盤が隆起した結果再び山に戻ったという、珍しい砂金山です。そのため水路を作りそこに砂金が含まれる斜面の土を削り入れ、水を流して金を集めるという方法で採集されていました。砂金山と中心集落の笹川集落は、重要な文化的景観にもなっています。



西三川・笹川集落の民家は、なぜか上条の民家に似ています。

相川の関連施設

相川の金銀山跡についてはゴールデン佐渡が一括管理しています。観光で訪れた方もいらつしやると思います。道遊の割戸の麓に近代以降の採掘現場があります。ここから沢を一つ隔てた反対側に、上相川と呼ばれている鉱山町跡が広がっています。上相川は江戸時代を通じて営まれた集落でしたが、明治に入って無人化しました。今の集落は、上相川から下ったところに細長く形成されており、「大工町」「京町」などの名が残っています。



上相川の集落跡。中央が道です。

「大工」とは金掘りのことで、京町という名からは、当時の繁栄ぶりが想像できます。京町を下ると、その先には佐渡奉行所があります。初代から三代までの佐渡奉行は、大久保長安・鎮目市左衛門・伊丹康勝で、いずれも甲州に関係する人物です。伊丹康勝は塩山三日市場に「十組屋敷」を構えていました。



京町通りから海をみる。

奉行所から海岸へ向かう途中には、近代化の巨大工場群が所在します。北沢浮遊選鉱場といい、国策のころの遺産です。



北沢浮遊選鉱場。本来は上に大屋根がかけられてあり、大量の鉱石を選別していました。

相川に残る町並み

相川には先述したとおり、古い町並みとして京町と大工町があります。大工町とは金掘りが住んでいた町で、金銀山の近くに作られています。そこから海へ下ると京町があります。京の商人や豪商たちが金銀の両替店を出しており、数艇の廻船をもち公儀の御用を勤めていました。

大工町は一本の通りの両側に住宅が並んでいます。京町は通りに直交する小路があり、その小路を境に上京町・中京町・下京町・八百屋町と、大工町と比べると複雑な都市計画を作っています。

下京町と八百屋町の境で、通りは直角に曲り、そこには時を告げる時鐘楼が建っています。江戸中期に造られた鐘が、今でも活躍しています。

通りを歩いていると、いたるところで鉾石を磨り潰した石臼をみかけます。石臼は黒川金山などでもみられますが、佐渡は数量が圧倒的に多いのが特徴です。石垣に組み込まれているもの、庭石に使われているもの、洗濯干しの足に使われているものもあります。古い町並みを、石臼を探しながら歩くのは、佐渡ならではの体験です。



大工町。この先には廃村になった上相川があります。武家屋敷のようなたたずまい。



京町の風景。海に面する傾斜地を上手に区画して、大きな町を作りました。傾斜地なので石臼を使った石垣がみられます。



上：京町に時を告げる時鐘楼。
下：時鐘楼前の喫茶店の看板。台に石臼を使っています。



大きな石臼ですが、こういった道具を作るための石切場も複数個所みついています。

世界遺産への取り組み

佐渡市では、今回のシンポジウムも含んで全ての事業が世界遺産登録という目標に向かって実施されています。その結果、国指定の文化財・史跡が三十八件にもなり、構成要素として認識されています。

平成二十二年に世界遺産暫定リストに記載されており、平成二十九年の推薦を目指しています。

佐渡市には重要伝統的建造物群保存地区が一箇所あります。宿根木といい廻船業の基地として栄えた港町でした。

小木町宿根木（港町）

所在地	新潟県佐渡市小木町
種別	大字宿根木の一部
条例制定年月日	平成二年九月二五日
選定年月日	平成三年四月三〇日
地区面積	約二八・五ヘクタール



保存物件数

建築物	一〇六件
工作物	一六件
環境物件	一〇八件

宿根木は千石船産業の基地として栄えました。

村には船主、船頭、水夫のほか、船大工や鍛冶屋、桶屋、各種商店、銭湯、髪結い、酒屋などが集まり、小さいながらも都市的な機能を備えていました。

集落内の小路は幅一・五メートルほどと狭く、車が入りできるところはほとんどありません。小路に面して、建物がびっしりと建っています。見学した日は観光客が多く来ていましたが、団体とすれ違うにも気を使う狭さです。

土地を有効活用するため、ほとんどの建物は二階建てで、潮風から守るため外壁は包み板と呼ばれる縦板張りが施されています。一軒だけ平面が三角形を呈する建造物があり、「三角屋」と呼ばれ有名です。



上：排水のため窪んだ小路。
左上：集落を上からみたところ。ひしめく藁。
左中：三角屋。土地を有効活用した結果です。
左下：小路と小川。